

日本分析化学会第67年会

1 はじめに

日本分析化学会第67年会は、9月12日(水)~14日(金)の3日間、東北大学川内北キャンパスで開催された。会場は仙台市営地下鉄東西線の川内駅に直結しており、仙台駅から10分以内でアクセスできる非常に便利な場所にあり、また天候にも恵まれたため、来場にご不便をおかけすることはあまりなかったと思われる。本年会では、「AI, MI (マテリアルズ・インフォマティクス)時代の期待と課題」をテーマとした特別公開シンポジウム・産業界シンポジウム(9月14日に開催)をはじめ、6の特別シンポジウム、一般講演、テクノレビュー講演、ポスター発表のほか、主にアジア諸国の研究者を交えた第4回アジア分析科学シンポジウムも開催された。参加者は1250名を数え、活発な討論がなされた。

2 講演

[プログラム担当: 火原彰秀(東北大多元研), 会場担当: 壺岐伸彦・鈴木敦子(東北大院環境), 若手ポスター担当: 唐島田龍之介(東北大院環境)]

依頼講演(34件)、一般講演(262件)、テクノレビュー(2件)が、東北大学川内北キャンパスA棟、B棟、C棟の12会場で行われた。研究懇談会は、1日目の午前に3件、午後に7件、2日目の午前に3件、3日目の午前に6件の合計19件が開催され、それぞれの世話人のアレンジによる講演が行われた。また、ポスター発表は、1日目と2日目に若手ポスター発表173件が、1日目と3日目には一般ポスター発表141件、テクノレビューポスター2件が行われた。



東北大学川内北キャンパス(講演会場)

3 シンポジウム

(1)「第4回アジア分析科学シンポジウム(4th Asian Symposium on Analytical Sciences)」(9月12日午後、13日午前)

[オーガナイザー: 珠玖 仁(東北大院工)]

分析化学の第一線で活躍中のアジア地域の研究者によ

表1 第67年会分類別講演数一覧表

分類	一般講演	テクノ 口頭	テクノ ポスター	一般 ポスター	若手 ポスター
01: 原子スペクトル分析	19			7	3
02: 分子スペクトル分析	11			7	21
03: レーザー分光分析	5				
04: X線分析・電子分光分析	10			15	7
05: 放射化学分析				1	
06: NMR, ESR, 磁気分析	1			1	3
07: 電気化学分析	11			2	15
08: センサー, センシングシステム	19			5	20
09: 熱分析	1			3	5
10: 有機微量分析	1				
11: 質量分析	4			8	1
12: マイクロ分析系	6			3	7
13: フローインジェクション分析	8			2	1
14: 液体クロマトグラフィー	14	1		12	9
15: ガスクロマトグラフィー	3	1		1	2
16: 電気泳動分析	5				2
17: 溶媒抽出法, 固相抽出法, イオン交換系	6			5	8
18: 分離・分析試薬の設計	4			3	6
19: 分析化学反応基礎論	6			2	1
20: データ処理理論				1	
21: 標準試料	2			1	
22: サンプリング, 前処理	1		1		5
23: 界面・微粒子分析	37			3	13
24: 宇宙・地球に関する分析化学	9			5	6
25: 地球環境関連分析	16			11	8
26: エネルギー関係	5				1
27: 農業, 食品等分析	7			12	4
28: 無機・金属材料分析	2			3	
29: 有機・高分子材料分析	9			7	2
30: 医薬品, 臨床分析	7		1	7	12
31: バイオ分析・イメージング	32			4	13
32: その他	1			5	3
合計	262	2	2	141	173



講演会場風景 1



講演会場風景 2

る, Plenary lecture (3件) と Invited lecture (10件) が行われた。

(2) 「特別公開シンポジウム；産業界シンポジウム」— AI, MI 時代への期待と課題— (9月14日午前)

AI, ビッグデータ時代を迎えた今, IoT やマテリアルズ・インフォマティクス (MI) などの導入が進んでいる。これらの活用, 展開, 課題について産業界におけるさまざまな最先端分析研究の取り組み事例が紹介された。

[オーガナイザー：宮野 博 (味の素㈱), 鈴木真由美 (富士フィルム㈱)]

永田賢二 (産総研), 河野禎市郎 (旭化成), 梶原茂樹 (島津基盤技研), 津村享佑 (富士フィルム), 谷本明佳 (日立エレクトロニクスイノベーションセンタ) の5名の講師の方々による講演が行われた。

(3) 特別シンポジウム

I. 「分析化学研究室生誕100周年シンポジウム」(9月12日午前)

[オーガナイザー：西澤精一 (東北大院理), 火原彰秀 (東北大多元研)]

浦野泰照 (東大院薬), 小澤岳昌 (東大院理), 渡慶次学 (北大院工), 長谷川 健 (京大化研) の4名の講師の方々による講演が行われた。

II. 「イムノアッセイの新展開」(9月12日午後)

[オーガナイザー：渡慶次学 (北大院工)]

Sergei Eremin (モスクワ大学), 上田 宏 (東工大), 白井健太郎 (シスメックス), 小林典裕 (神戸薬大), 片田順一 (富士フィルム), 重村幸治 (Tianma Japan), 笠間敏博 (東大院工), 小島 哲 (富士レビオ) の8名の講師の方々による講演が行われた。

III. 「放射能と分析化学～挑戦する分析化学～」(9月13日午前)

[オーガナイザー：高貝慶隆 (福島大)]

長谷川秀一 (東大院工), 塚原剛彦 (東工大), 青山道夫 (福島大), 増田尚宏 (東京電力), 高崎史彦 (高エネ

ルギー加速器研究機構) の5名の講師の方々による講演が行われた。福島原発事故から7年が経過し, 研究者間でも風化が懸念されたが聴講者も多く (最大50名程度), 活発な議論があり, 現状と現場が求めている分析ニーズについて理解を深める有意義な機会となった。

IV. 「先端界面評価法と材料設計・応用技術」(9月13日午前)

[オーガナイザー：水上雅史 (東北大), 上條利夫 (鶴岡高専)]

水上雅史 (東北大), 田村和志 (出光興産), 泰岡顕治 (慶応大), 久保百司 (東北大), 山口 央 (茨城大), 足立幸志 (東北大院工) の6名の講師の方々による, 種々の表面・界面やナノメートルレベル空間内の分子構造・特性に関する講演が行われ, 基礎から応用研究まで様々な質疑討論がなされた。

V. 「最先端情報数理解析を用いた, 分析化学データからの情報抽出」(9月14日午後)

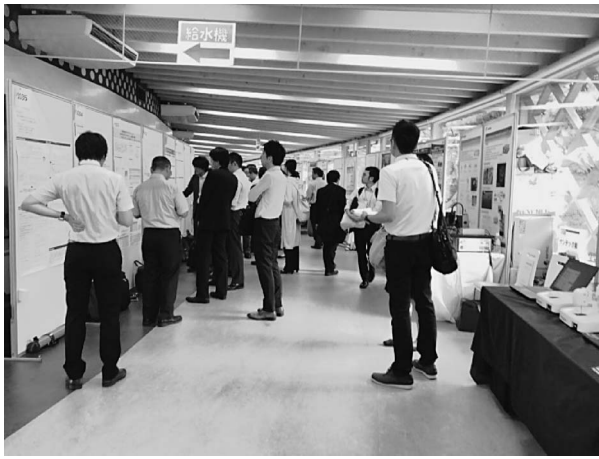
[オーガナイザー：片山建二 (中央大)]

安藤正浩 (早稲田大), 葛西卓磨 (理研), 永田賢二 (産総研), 桑谷 立 (海洋研究開発機構), 星野 学 (科学技術振興機構), 山崎裕一 (物材機構) の6名の講師の方々による講演が行われた。様々な分析計測技術およびそのデータに対する情報科学的アプローチについて活発な議論が行われ, 情報計測手法に対する関心が伺えた。

VI. 「分子・材料における水の新しい計測技術とその応用展開」(9月14日午後)

[オーガナイザー：由井宏治 (東理大), 味戸克裕 (NTT)]

由井宏治 (東理大), 平井光博 (群馬大), 徳増 崇 (東北大), 本間芳和 (東理大), 上田剛慈 (フェムトディプロイメンツ), 味戸克裕 (NTT) の6名の講師の方々による講演が行われた



ポスター会場兼展示会場



懇親会：岡田会長による挨拶

4 付設展示会，ランチョンセミナー，テクノレビュー

川内厚生会館にて，付設展示会が開催された。今回の機器展示に21社，書籍販売2社，カタログ展示に2社の御協力を頂いた。本年会では，若手と一般のポスター発表と同じ会場で開催したため，展示会場は多くの来場者で賑わっていた。

大会期間中すべての日の昼に，6件のランチョンセミナーが開催された。お弁当を食べながら各企業の最先端技術や製品に関するセミナーを聞くことができる大変有意義な規格で有り，チケットが配布30分程度でなくなるほど，大変好評であった。本年会では，テクノレビュー講演として口頭発表2件，ポスター発表2件が行われた。

5 学会賞等授賞式，学会賞講演など

学会賞授賞式ならびに学会賞受賞講演は，東北大学百年記念会館萩ホールで行われた。

田中理事の開会挨拶で式が始まり，岡田哲男日本分析化学会会長の挨拶のあと，学会賞3名，学会功労賞4名，奨励賞4名，技術功績賞3名，先端分析技術賞(JAIMA 機器開発賞2件(各4名)，CERI 評価技術賞1名)，「分析化学」論文賞1名，女性 Analyst 賞2名，有功賞48名にそれぞれ賞状と副賞が授与された。授賞式の後，ホール内ステージ上にて有功賞受賞者の記念撮影が行われた。その後15時00分より，片山佳樹氏，渡慶次 学氏，戸田 敬氏による学会賞受賞講演が行われた。技術功績賞の鈴木康弘氏，高山 透氏，前田恒昭氏，奨励賞の上村真生氏，東海林竜也氏，高橋幸奈氏，谷 英典氏，JAIMA 機器開発賞の清水 禎氏，鈴江崇彦氏，CERI 評価技術賞の鈴木彌生子氏，「分析化学」論文賞の竹中繁織氏，女性 Analyst 賞の佐藤しのぶ氏，津村ゆかり氏の受賞講演は，関連する一般講演会場で行われた。



懇親会

6 懇親会

懇親会は，2日目の18時30分より，仙台駅に隣接したホテルメトロポリタン仙台開催された。今回，ミキサーは実施せず，若い方にも多く懇親会に参加いただいで，幅広い年代の方との交流を深める催しとした。約380名の参加者のもと，末永智一実行委員長と岡田哲男会長の挨拶，大野英男東北大学総長ならびに栗原権右衛門日本分析機器工業会会長(松浦義和専務理事代読)の来賓挨拶に続き，寺前紀夫東北大学名誉教授の乾杯のご発声で懇親会が始まった。東北らしい食と酒を触媒に楽しく充実した交流の場にしたいという実行委員会の方針で余興はなしとした。会の終盤で，次期討論会の竹中繁織実行委員長(九州工業大学)および次期年会の藤浪眞紀実行委員長(千葉大学)より説明を頂いた。20時30分をもって糠塚いそし東北支部長が中締め挨拶をしてお開きとなったが，なごりを惜しむ懇談が続き，21時ようやく会場の扉が閉じられた。

7 若手ポスター賞

若手企画としては，若手ポスターの審査と表彰が行われた。若手ポスターは，1日目の午前に62件，1日目



懇親会 地酒

の午後に 51 件，2 日目の午前に 62 件の発表が行われた。一般会員の審査員の厳正なる審査の結果，各セッションの上位 4~6 名（計 15 名）を若手ポスター賞に選出した。若手ポスター賞の審査結果は総合受付にて 3 日目午前に掲示し，受賞者には総合受付にて賞状を授与した。若手ポスター賞の受賞者は，以下のとおりである（敬称略）。鈴木哲仁（京大院農），末永泰広（慶応大），戸田 樹（大阪府大），松本和真（東理大），野条拓矢（首都大），伊藤健太郎（東北大院環境），三石夏澄（熊本大）。保久友宏（大阪大），久保祐介（東理大），佐藤武（東北大院薬），原口はづき（東洋大），星野翔平（東洋大），小汲佳祐（東京都立産業技術研究センター），橋本彩加（東理大），八重垣稜佑（東北大院工）。

8 その他

第 10 回生涯分析談話会〔世話人：斎藤紘一（東北大）・寺前紀夫（東北大）〕が初日の午後に開催された。この談話会は，分析化学会員が退職後も学会に参加し，

相互の交流と親睦をはかることを目的としており，今回は，大類 洋氏（東北大学名誉教授）による講演と懇親会が行われた。

また 2 日目に，第 13 回女性研究者ネットワークセミナー〔世話人：吉田裕美（京工織大）〕が行われた。女性 Analyst 賞を受賞された佐藤しのぶ氏，津村ゆかり氏を迎え，ランチをしながら和やかな雰囲気の中，情報交換会が行われた。広報活動としては東京の本部事務局で「展望とトピックス委員会」による記者会見と冊子「展望とトピックス」の配布が行われた。

9 おわりに

本年会に参加された会員の皆様，特別公開シンポジウム・産業界シンポジウム等でご講演いただきました講師の方々，展示会に出典いただきました関連企業の皆様に深く御礼申し上げます。大会中は天候にも恵まれ，大きなトラブルもなく盛会裏に年会を終えることができました。本年会に向け，長い間の事前準備と年会中の円滑な運営をご担当いただきました日本分析化学会東北支部の皆様，分析化学会本部事務局の皆様，ならびにアルバイトの学生の皆さまのご尽力に心より感謝申し上げます。また会場となった東北大学事務職員の皆様，懇親会等で地元企業の皆様からも大きなご支援いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。季候のいい時期でしたので，ちょっと足を伸ばして仙台や仙台近郊の名所に行かれた方や地物の名産等をご賞味いただいた方も多いと思います。機会があれば，また，仙台そして東北をご訪問頂ければ幸いです。

〔東北大学大学院環境科学研究科 末永智一〕
〔東北大学大学院理学研究科 佐藤雄介〕

原稿募集

創案と開発欄の原稿を募集しています

内容：新しい分析方法・技術を創案したときの着想，新しい発見のきっかけ，新装置開発上の苦心と問題点解決の経緯などを述べたもの。但し，他誌に未発表のものに限ります。

執筆上の注意：1) 会員の研究活動，技術の展開に参考になるよう，体験をなるべく具体的に述べる。物語風でもよい。2) 従来の分析方法や装置の問題点に触れ，記事中の創案や開発の意義，すなわち主題の背景を分かりやすく説明する。3) 図や表，当時のスケッチなどを用いて理解しやす

くすることが望ましい。4) 原稿は図表を含めて 4000~8000 字（図・表は 1 枚 500 字に換算）とする。

◇採用の可否は編集委員会にご一任ください。原稿の送付および問い合わせは下記へお願いします。

〒141-0031 東京都品川区五反田 1-26-2
五反田サンハイツ 304 号

（社）日本分析化学会「ぶんせき」編集委員会
〔電話：03-3490-3537〕